

〈発行〉二所ノ関部屋後援会
 発行先 〒273-0037
 千葉県船橋市古作4-13-1
 協力 スポーツニッポン新聞社
第65号

二所ノ関部屋

社会人・大学の江差合同合宿に単身参加

中園の北の大地



見習って日々精進する!! 江差町の親方をシボル「開陽丸」の前で合宿では中園のボーズを取らないで、合宿で汗を流す(古)まわしを締めず、稽古場です。



江差相撲道場の前で

勝負の秋「絶対幕下に戻ります」



江差相撲道場

若手期待の中園(20)が北の地でさらなる出世を誓った。名古屋場所後の8月3日から約3週間、北海道・江差で行われた社会人、大学の合同合宿(9月11日初日秋場所)に単身で参加。いつもとは違う環境のなかで、得意のも差しからの攻めを磨いている。新幕下の名古屋場所では3勝4敗に終わったが、秋場所(9月11日初日、両国国技館)では成長した姿を披露する。

松鳳山も経験「地獄の夏」
 名古屋後 約3週間 霧雨気な 漂う表情をのぞかせた。

新幕下で 3勝4敗 同地で 運、中大、駒大が合同で合宿を実施。総勢約30人の終着点として繁栄した北海道・江差の中心部にある江差相撲道場。中園の「夏はここがメイン会場となった。鹿児島・種子島生まれの20歳は「毎日は夏巡業に参加の予定だ。大変ですけど、ために」

社会人、大学の猛者ぞろいの中、精神的に稽古に励む中園。江差で流した汗は必ず秋の力になる!! だが、部屋の後援者でもある中大出身の元幕下力士、村上光昭氏の勧めなどもあって単身で乗り込んだ。名古屋場所は入門5年目で新幕下に昇進。舩東欧を一気の速攻



相撲で下すなど奮闘したが、結果は3勝2敗から連敗して負け越し。それでも「立ち合いなども含めて手心えはあった」と振り返る。さらなる飛躍を誓って臨んだ夏は最高の環境がそろった。

合宿地に 朝稽古は親方来た港までのラニングを行った後、大学生と3番稽古その後、申し合いなどを行って泥まみれになった。相手はアマチュアとはいえレベルは自身と同格か、それ以上。中大は全国大会の上位常連で、矢後太規主将は5月の和歌山大会で準優勝。他の部員も猛者ぞろいで中園も目が出ないこともあるが、育ち盛り

成長の源になっている。得意の戦法は、もろ差しからの速攻相撲。もちろん自分の形になるためには、立ち合いを強化することが必要なのは十分心得ている。「立ち合いからもろ差しを狙うのではなく、しっかりと当たってそれから差す」。8月中旬に合宿地を訪れた師匠の二所ノ関親方(元大関・若嶋津)も、「いい稽古をしていた」と話し、「もう少し体を大きくして頭からしっかりと当たって攻めること」とアドバイスした。

二段目も 秋場所は巻き返す三段目に陥落するが、「絶対に勝ち越して幕下に戻ります」ときっぱり。北の大地でもまれた精かな顔つきは、今後の飛躍を感じさせるものだった。

の20歳には一番が

観光名所「開陽丸」

北海道の北に位置し、北海道文化発祥の地といわれる。江戸期のニシンの漁最盛期には「江差の五月は江戸にもない」と言われるほど繁栄を極めた。北前船交易によりもたらされた「江差道分」などの伝統芸能や生活文化が数多く伝承されている。また江差沖で座礁沈没した江戸幕府の軍艦「開陽丸」が復元され、かもめ島と並ぶ観光名所となる。人口約9500人。

(黒田 健司郎)

